

# 東京2020大会の分析

競技力強化のための施策に関する評価検討会用資料

(公財)日本オリンピック委員会

2021年9月29日



# 東京2020大会 の分析

- ✓ 結果の概要とメダル獲得状況
- ✓ NTC事業関連競技の状況
- ✓ 過去のオリンピック開催国との比較
- ✓ 調査結果の概要（結果への影響要因、課題）
- ✓ まとめ：今後の課題と展望

# 第32回 オリンピック競技大会（東京2020）の概要

開催期間:2021年7月23日(金)～8月8日(日) 17日間

参加国・地域数:205(※その他にIOC難民選手団)、選手数:約11,000人、競技数:33競技:339種目

## 東京2020オリンピック 日本代表選手団

選手 583 名 ※今大会ルールに基づく交替出場選手を除く 団 長:福井 烈 主 将:山縣 亮太(陸上競技)

監督・コーチ等 475名 総監督:尾縣 貢 副主将:石川 佳純(卓球)

## 過去5大会及び1964年東京大会におけるメダル獲得数・入賞数などとの比較

開催年	開催場所	種目数	獲得メダル・入賞者数					選手・役員数			
						小計	4-8位	合計	選手	役員	小計
2021	東京	339	27	14	17	58	78	136	583	475	1058
2016	リオデジャネイロ	306	12	8	21	41	47	88	338	263	601
2012	ロンドン	302	7	14	17	38	42	80	293	225	518
2008	北京	302	9	6	10	25	52	77	339	237	576
2004	アテネ	301	16	9	12	37	40	77	312	201	513
2000	シドニー	300	5	8	5	18	42	60	268	171	439
1964	東京	163	16	5	8	29	36	65	355	82	437

- 日本代表選手団の**金メダル数(27個)**、**総メダル数(58個)**は、共に**過去最多**であったが、目標とした金メダル30個には届かなかった。
- 競技数では、金メダル獲得は10(29%)、メダル獲得は20(57%)、入賞は28(80%)競技(国の重点支援競技への支援は16競技)と過去最多となり、入賞**(4位～8位)も大幅増**(過去5大会40～52→今回78)となった。

⇒ **日本代表選手団の編成方針(参加競技種目すべてにおいて上位入賞をめざす)に沿った成績を収めることができた**

- メダリストは99名、うち12名が複数メダル獲得、2名は複数の金メダルを獲得。
- これまでメダル獲得がなかった**12種目**(バスケットボール女子、自転車女子オムニウム、ゴルフ女子、陸上競技男子20km競歩、ボクシング女子フライ級、女子フェザー級、体操女子ゆか、フェンシング男子団体エペ、バドミントン混合ダブルス、卓球女子シングルス、アーチェリー男子団体、競泳女子200m個人メドレー)で**初のメダル獲得**。
- 新採用の全5競技で複数メダル獲得(14個:野球・ソフトボール2、空手3、スケートボード5、スポーツクライミング2、サーフィン2)

⇒ **メダル獲得競技・種目の広がり**

- 日本史上最年少13歳の金メダリスト誕生など**若い世代の活躍**(10代のメダリストは8名)がみられた。

⇒ **鈴木プランで掲げた「メダル獲得の最大化」を充たすことができた**

- Covid-19感染者は選手、役員ともに日本は0(全体547名(選手28名、選手団関係者147名))。
- 選手は、誠実にクリーンかつフェアな姿勢で競技に臨み(問題事案は無)、会見等では大会開催、様々なサポートに対する感謝の言葉が多くみられ、大会の成功とスポーツの価値向上を後押しした。⇒ **実効性あるコロナ対策とスポーツインテグリティ教育等による効果**

ロンドン, リオデジャネイロ, 東京の3大会連続で

メダルを1個以上獲得した	メダルを複数獲得した	メダルを複数獲得し、かつ 金メダルを1個以上獲得
柔道	柔道	柔道
水泳・競泳	水泳・競泳	レスリング
レスリング	レスリング	体操・体操競技
体操・体操競技	体操・体操競技	
卓球		
陸上競技		
バドミントン		
ウエイトリフティング		

ロンドン, リオデジャネイロ, 東京の3大会のうち2大会以上で

メダルを1個以上獲得した	メダルを複数獲得した	メダルを複数獲得し、かつ金メダルを1個以上獲得した
柔道	柔道	柔道
水泳・競泳	水泳・競泳	水泳・競泳
レスリング	レスリング	レスリング
体操・体操競技	体操・体操競技	体操・体操競技
卓球	卓球	ボクシング
ボクシング	ボクシング	
陸上競技	陸上競技	
バドミントン	アーチェリー	
アーチェリー		
ウエイトリフティング		
フェンシング		

選手の女性の数、メダル獲得数の状況

	大会	人数	人数のうち 女性数	女性割合(%)	メダル獲得数	メダル獲得数のうち 女性種目(混合除く)	メダル獲得数のうち 女性種目割合(%) (混合除く)
選手	ロンドン2012	293	156	53.2	38	17	44.7
	リオ2016	338	164	48.5	41	18	43.9
	<b>東京2020</b>	<b>583</b>	<b>277</b>	<b>47.5</b>	<b>58</b>	<b>30</b>	<b>51.7</b>

監督・コーチの女性の数、外国人の数、NCA修了生の数の状況

	大会	人数	人数のうち 女性数	女性割合(%)	人数のうち 外国人数	外国人割合(%)	人数のうち NCA修了生数	NCA修了割合 (%)
監督・ コーチ	ロンドン 2012	134	16	11.9	13	9.7	29	21.6
	リオ2016	147	23	15.6	19	12.9	38	25.9
	<b>東京2020</b>	<b>271</b>	<b>40</b>	<b>14.8</b>	<b>52</b>	<b>19.2</b>	<b>103</b>	<b>38.0</b>

※チームリーダーやスタッフは含まない

## ◆エリートアカデミー関連競技の東京2020大会結果

**出場10名(4競技)**    ロンドン2012大会、リオ2016大会 : 出場者なし

**メダル 5(金3, 銀1, 銅1)**

- レスリング(3)**     **乙黒拓斗**(フリースタイル/男子65kg級)     **須崎優衣**(同/女子50kg級)     **向田真優**(同/女子53kg級)
- 卓球(2)**     **平野美宇**(女子団体)     **張本智和**(男子団体)



**入賞 4(2競技)**

- フェンシング** 男子フルーレ団体(西藤俊哉、永野雄大:4位)    女子サーブル団体(江村美咲:5位)
- 水泳/飛込** 男子シンクロダイビング10m高飛込(伊藤洸輝:8位)

**出場 レスリング:** 乙黒圭祐 (フリースタイル74kg級)

## ◆競技別NTC関連競技の東京2020大会結果

**メダル 2(銀)**

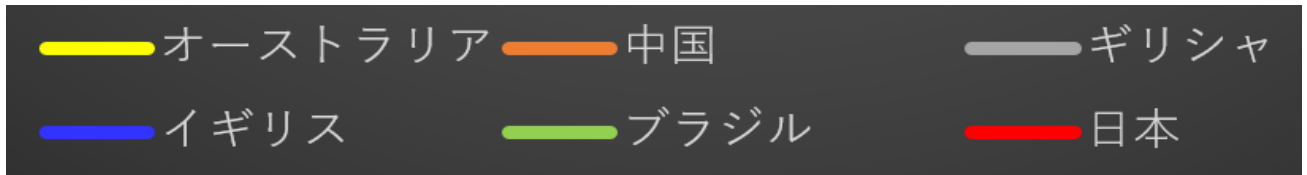
- 自転車**  **梶原悠未**(トラック女子オムニウム:日本女子初)    **ゴルフ**  **稲見萌寧**(女子個人:日本ゴルフ初)

**入賞 10 (7競技)**

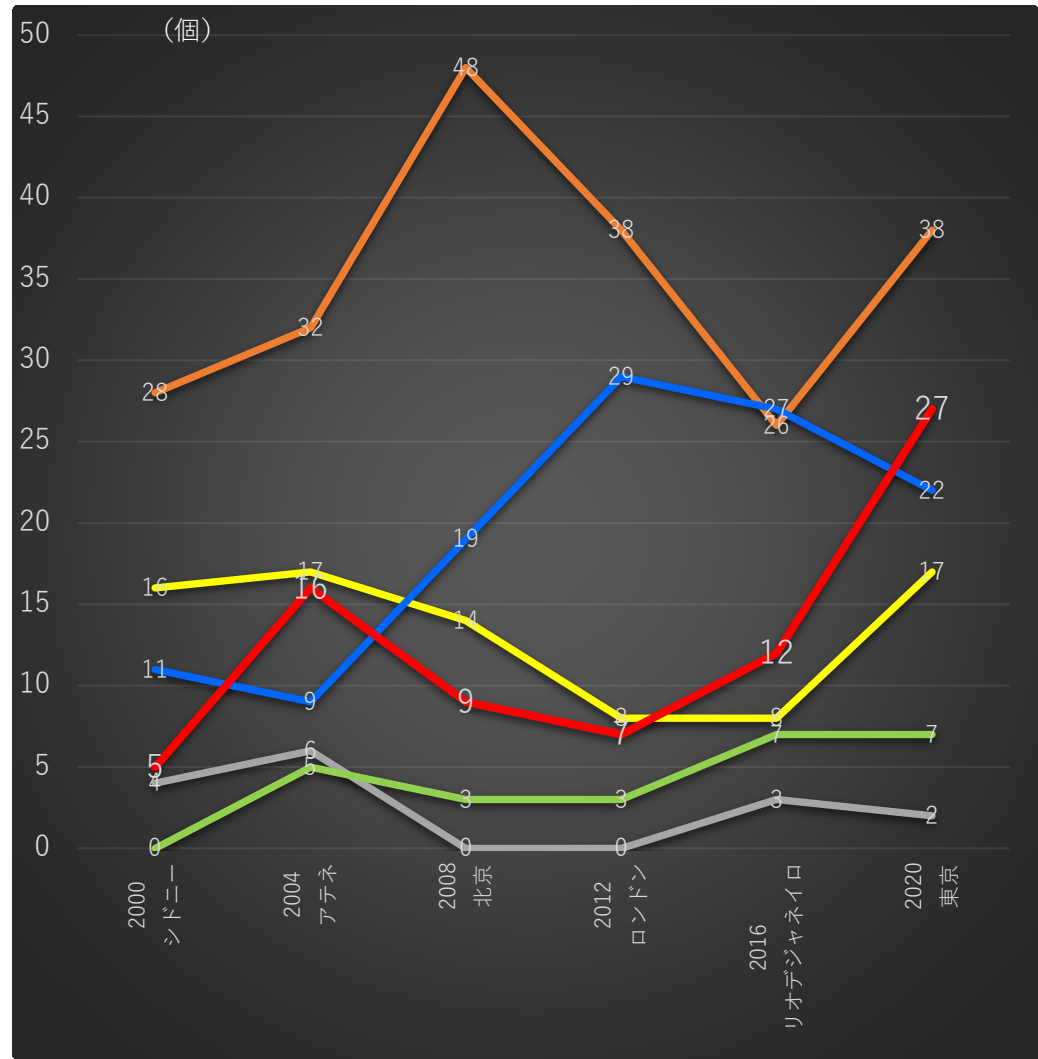
- サッカー** 男子(4位) / 女子(8位)    **馬術** 総合馬術個人(戸本4位) / 障害馬術個人(福島6位)    **ゴルフ** 男子個人(松山4位)
- クレー射撃** 混合トラップ団体(大山 / 中山5位)    **テコンドー** 女子49kg級(山田5位)    **自転車/トラック** 男子ケイリン(脇本7位)
- セーリング** 男子470級(岡田 / 外薮7位)、同(吉田 / 吉岡7位)

ロンドン2012大会: メダル2(銀1、銅1(アーチェリー)、入賞4(アーチェリー、自転車、カヌー(スラローム、スプリント))  
リオ2016大会 : メダル1(銅1(カヌー(スラローム))、入賞3(ラグビー、ゴルフ、セーリング))

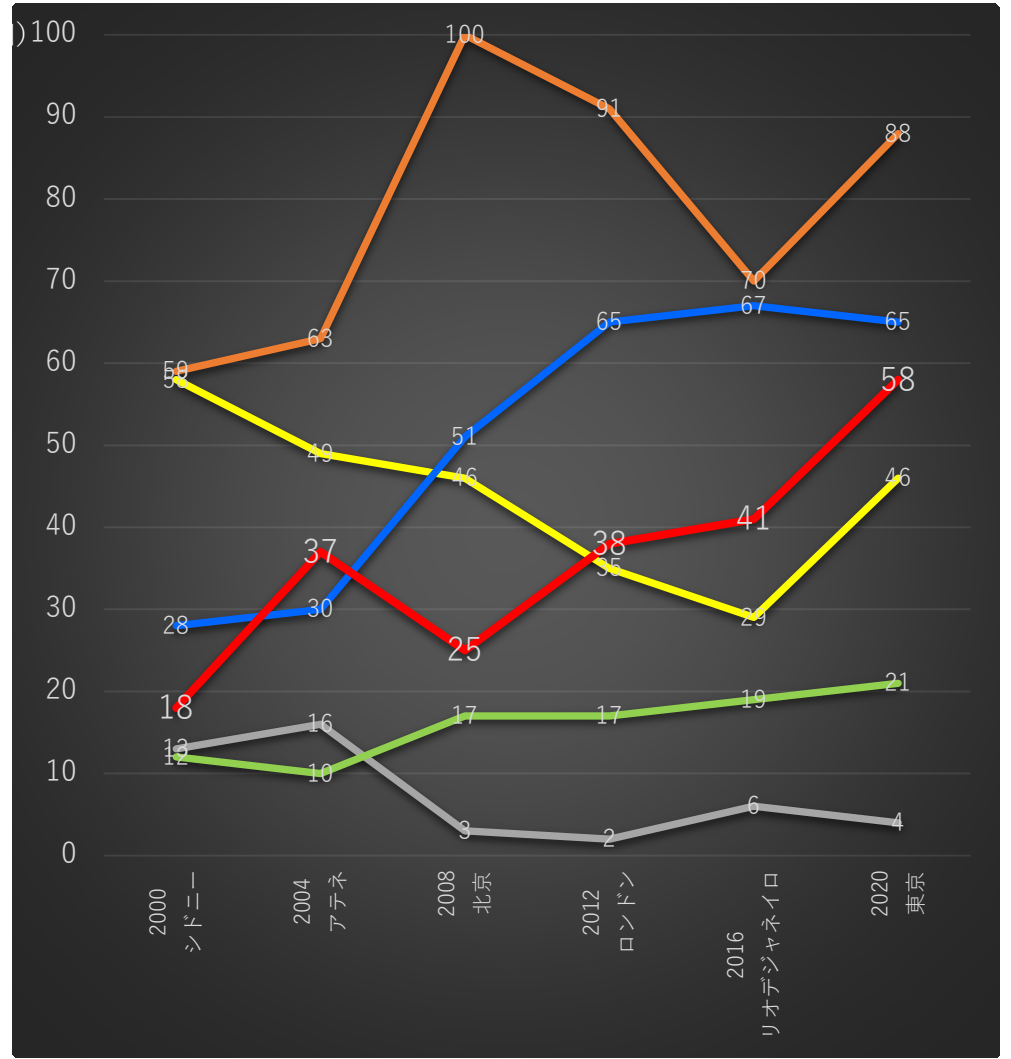




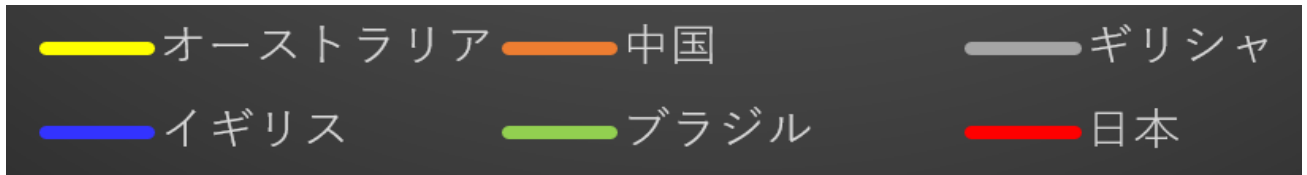
<金メダル数の推移>



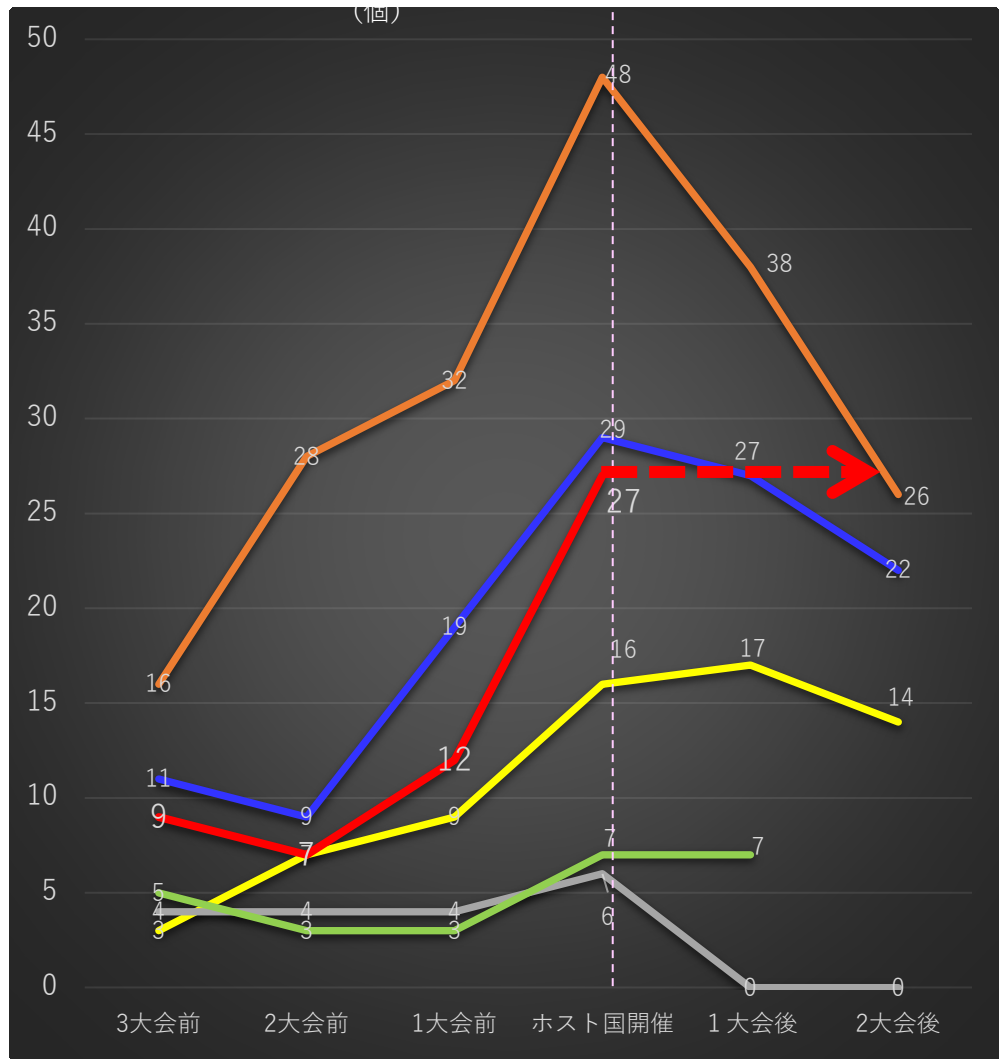
<メダル数の推移>



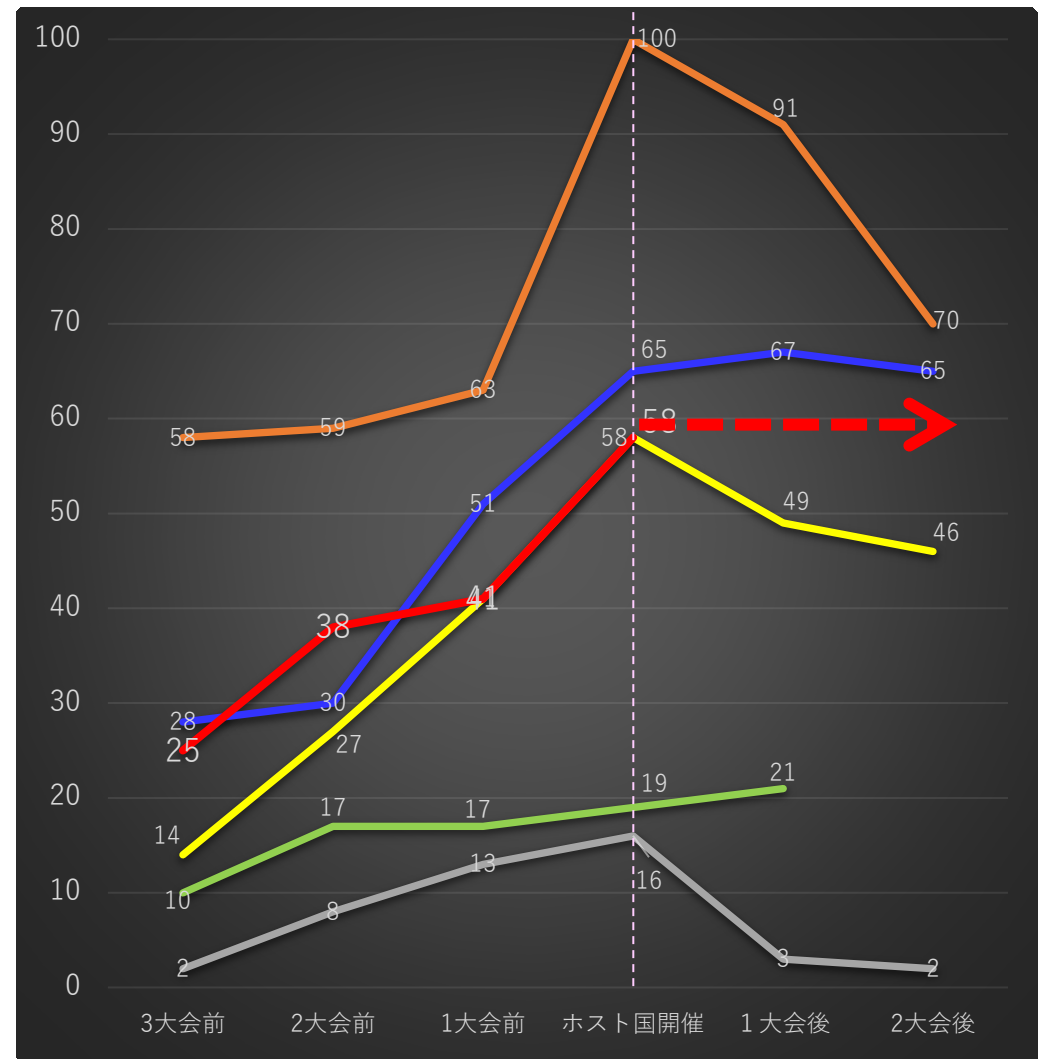
# 2000年から2020東京までの各ホスト国の開催前後のメダル数の推移 (左:金メダル、右:総メダル)



## <金メダル数の推移>



## <メダル数の推移>



<参考> 諸外国における2020年度の選手強化費 ~JSC提供資料より~

右に示す5か国は、オリンピック開催年（当初）の日本よりも2020年度の選手強化予算は多額である。次の大会ホスト国フランスは多額の強化費が投入されている。2大会前のホスト国である英では日本よりも2割、韓国でも約3割多額の選手強化費となっている。

⇒必ずしも日本の選手強化費が他国に比べて多額ではないことがわかる

国名	選手強化費総額		原資	配分元
	現地通貨	日本円換算		
フランス	2億7,301万ユーロ	338.5億円	国庫	都市・青少年・スポーツ省
ドイツ	1億8,337万ユーロ	208.2億円	国庫	連邦内務省
韓国	1,446.9億ウォン	128.1億円	国庫（基金）	文化体育観光部／国民体育振興基金
英国	9,130万ポンド	123.9億円	国庫、国営くじ収益	デジタル・文化・メディア・スポーツ省、UKスポーツ
オーストラリア	1億3,814万豪ドル	104.1億円	国庫	保健省、スポーツ・オーストラリア
日本	100億5400万円	100.5億円	国庫	スポーツ庁
オランダ	6,959万ユーロ	86.3億円	国費	保健・福祉・スポーツ省
カナダ	7,363万加ドル	58.1億円	国庫、NOC	民族遺産省、OWN・ザ・ポディウム
ニュージーランド	3,673万NZドル	25.9億円	国庫	文化遺産省、ハイパフォーマンススポーツ・ニュージーランド

- [1] 2020年のスポーツ省スポーツ予算のうち、エリートスポーツ予算。2020年度からエリートスポーツの予算枠組みに一部変更あり。個人助成を含まない。
- [2] 2020年の連邦内務省スポーツ予算のうち、中心的施策予算(Zentrale Massnahmen auf dem Gebiet des Sports)。トレーニング施設等の予算を一部含む。個人助成を含まない。
- [3] 2020年度の優秀選手育成支援、障害者専門体育支援の投資総額。障害者専門体育支援には、一部コミュニティスポーツを含む。個人助成を含まない。
- [4] オリンピック・パラリンピック競技への4年間の投資総額を1年平均で算出（夏季：2017～2020年度、冬季：2019～2022年度）。個人助成（APA）を含む。
- [5] ハイパフォーマンススポーツ（オリンピック・パラリンピック）への投資総額（2019-2020年度）。非オリンピック・パラリンピック競技も含む。個人助成は含まない。
- [6] 2020年度競技力向上事業費。ハイパフォーマンスサポート事業は除く。
- [7] 2020年の保健・福祉・スポーツ省スポーツ予算のうち、ハイパフォーマンススポーツ予算と競技力向上事業も含まれる「Sport verenigt Nederland」の関係予算を合わせたもの。一部施設やコミュニティスポーツ予算も含む。
- [8] 夏季競技、冬季競技、チーム競技の投資総額（2020-2021年度、オリンピック・パラリンピック競技）。個人助成を含まない。
- [9] ハイパフォーマンススポーツへの投資総額(2020年)。統括団体(オリンピック／パラリンピック委員会)、非オリンピック・パラリンピック競技も含まれる。個人助成を含む。

## 第32回 オリンピック競技大会（東京2020）の結果のまとめ

- **柔道、レスリング、体操**が日本の強みの競技であり、次いで競泳、陸上競技、卓球、ボクシング、アーチェリー、バドミントン、ウエイトリフティング、フェンシングがメダル獲得の基盤種目といえる(3大会分の成績から)。
- **球技系(団体)競技**では、3個のメダル(野球・ソフトと女子バスケットボール)獲得と4位以下の入賞3を果たしたが、実施競技如何によらず、今後もこの水準が維持されることが期待される。
- **海洋・水辺系競技**では、2個のメダル獲得(サーフィン)と4位以下の入賞3(サーフィン1、セーリング2)を果たしたが、更なる成績向上が期待される。
- 女子種目で過去最多14個(6競技)の金メダルを含む**30個(15競技)**のメダル獲得
- 女性出場者の割合は47.5%と低下傾向を示し、女性指導者の割合は14.8%、外国人指導者の割合は漸増傾向で19.2%であった。**NCA修了者**は38%と漸増傾向にあり、監督のみとした場合には52.9%が修了しており、今後の受講増が期待される。
- **エリートアカデミー生**の関連競技では初のオリンピックとなる10名(4競技)が出場し、メダル5(金3、銀1、銅1)、入賞4となり、過去最高の成績であった。
- **競技別NTC関連競技**では、メダル2個、入賞12(7競技)の成績であり、**ハイパフォーマンスセンター関連競技**ではメダル42個(12競技)、入賞57(14競技)となり、競技別NTC及びハイパフォーマンスセンターの活用と機能強化が貢献したといえる。  
⇒ **鈴木プラン**(女性トップアスリートへの支援強化、ナショナルトレーニングセンターの拡充整備等の実施等)による戦略的強化支援が功を奏したといえる
- 過去5大会のオリンピックホスト国の自国開催後のメダル獲得状況では、**イギリスとブラジル**はその水準を維持している。  
⇒ **日本も今後の成績水準の維持が課題である。**

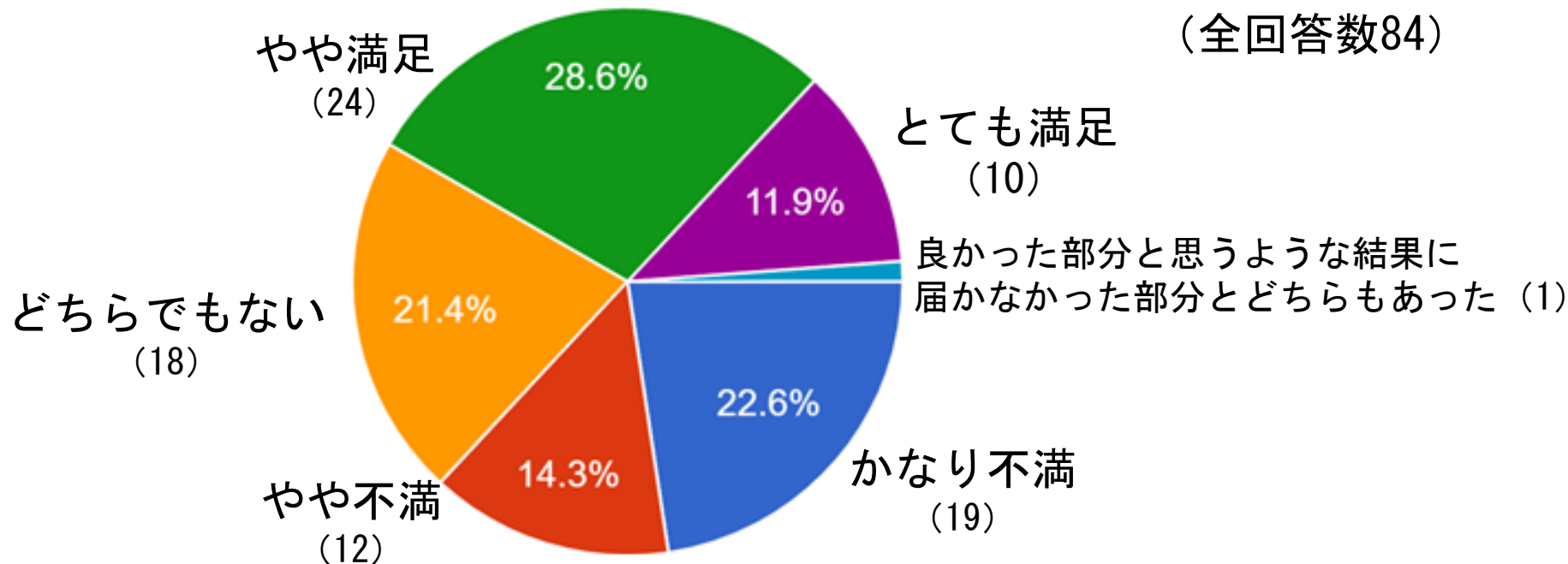
## 東京2020大会直後、各NFのナショナルコーチ等に大会を振り返っての率直な感想・所感を調査。

※ナショナルコーチが不在のNFについては、強化責任者に回答を依頼

※回答は、強化戦略プランを作成した強化単位毎に提出（各強化単位の監督等による回答も可）

※調査期間：8月20日～30日 調査方法：オンライン上でのアンケート調査 回答数：84

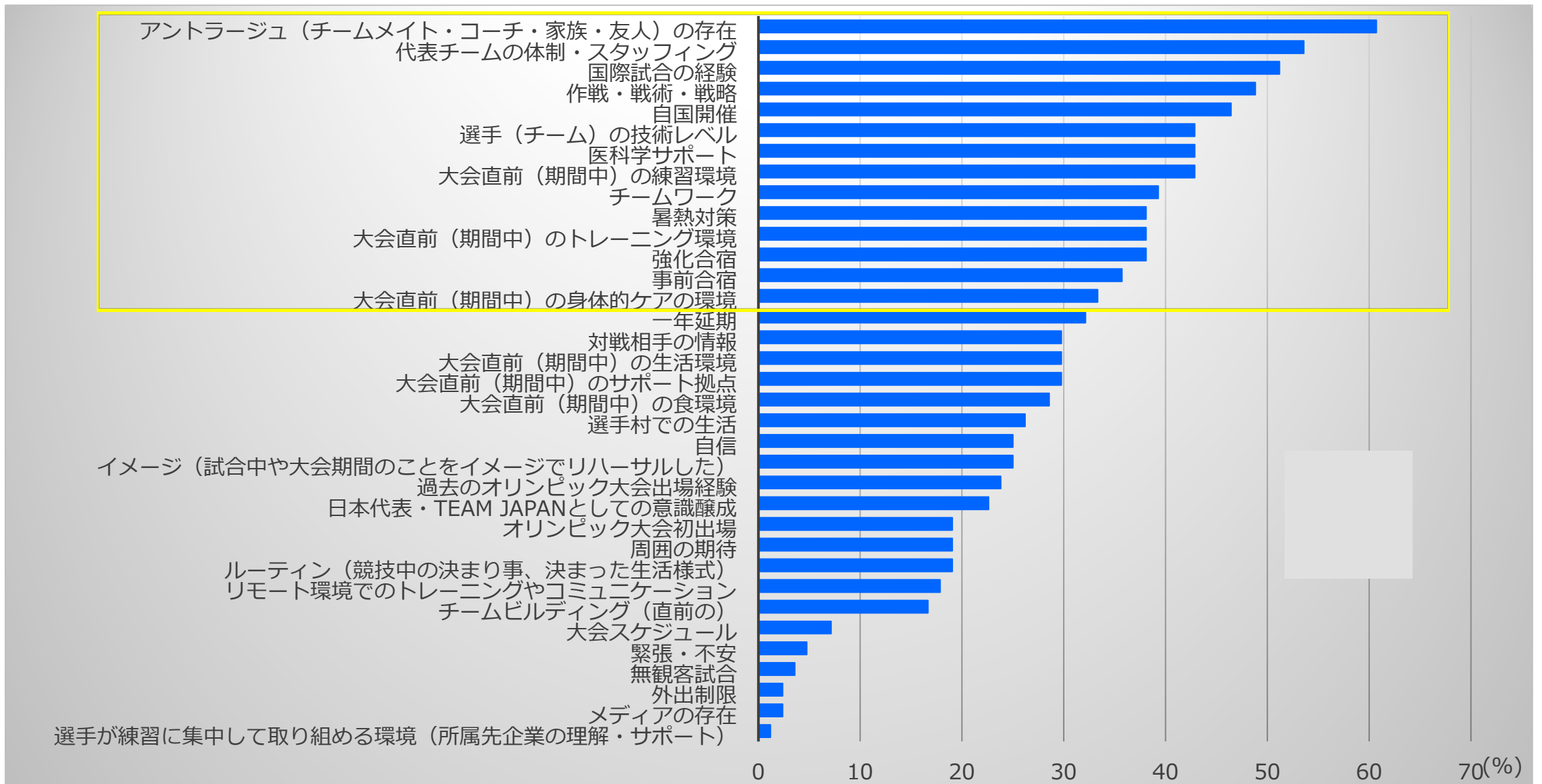
### 今大会の競技結果についてどのように思いますか？



#### 5 とても満足 (10)

ボクシング,バスケットボール(女子),レスリング女子フリースタイル,卓球(男子/女子/混合),フェンシング(男子エペ),野球,ソフトボール,空手(男女形)

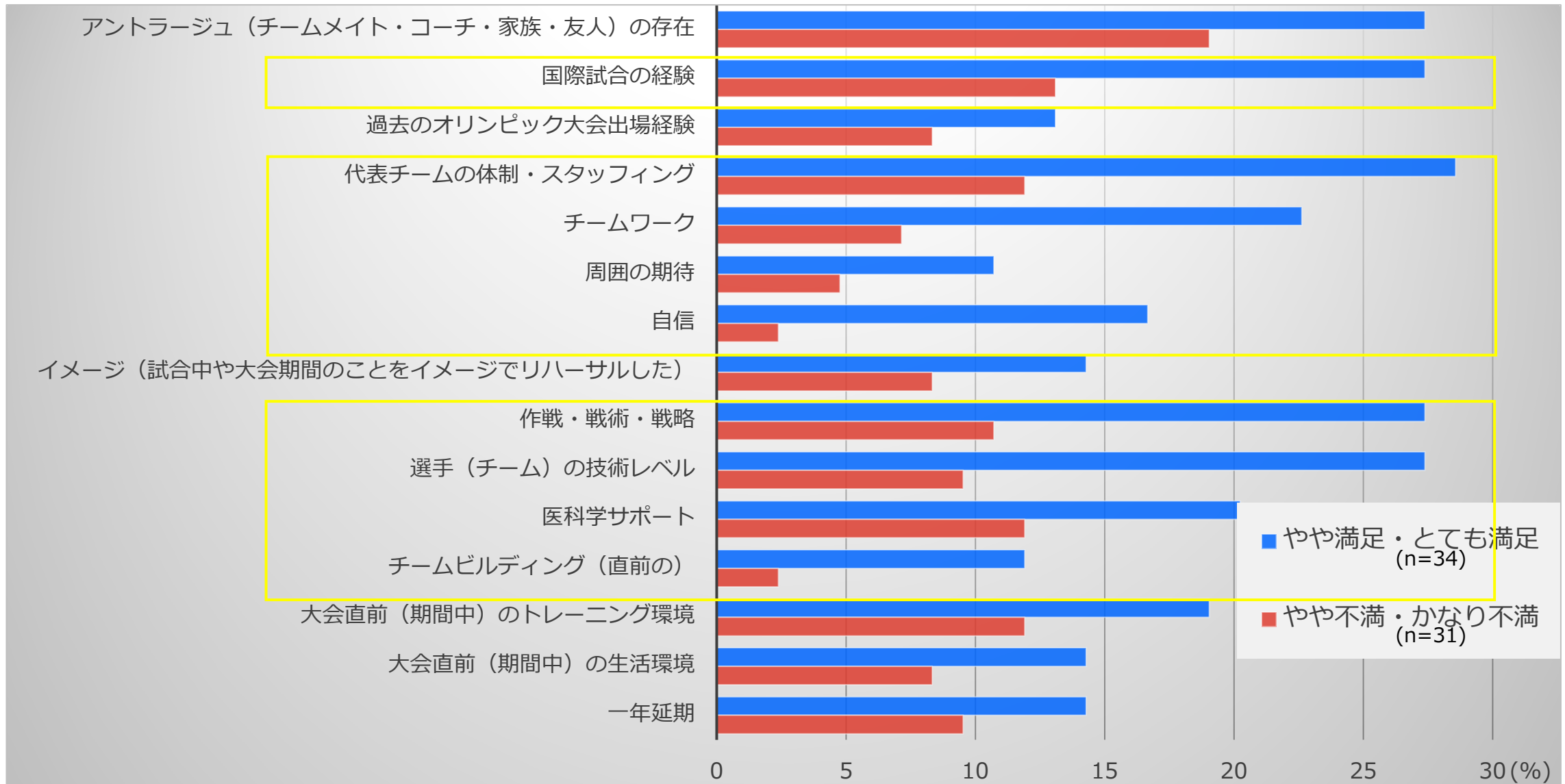
今大会(東京2020)の競技結果に何が影響したと考えますか？  
 以下の中からプラスに影響したものを教えてください。(複数選択可)



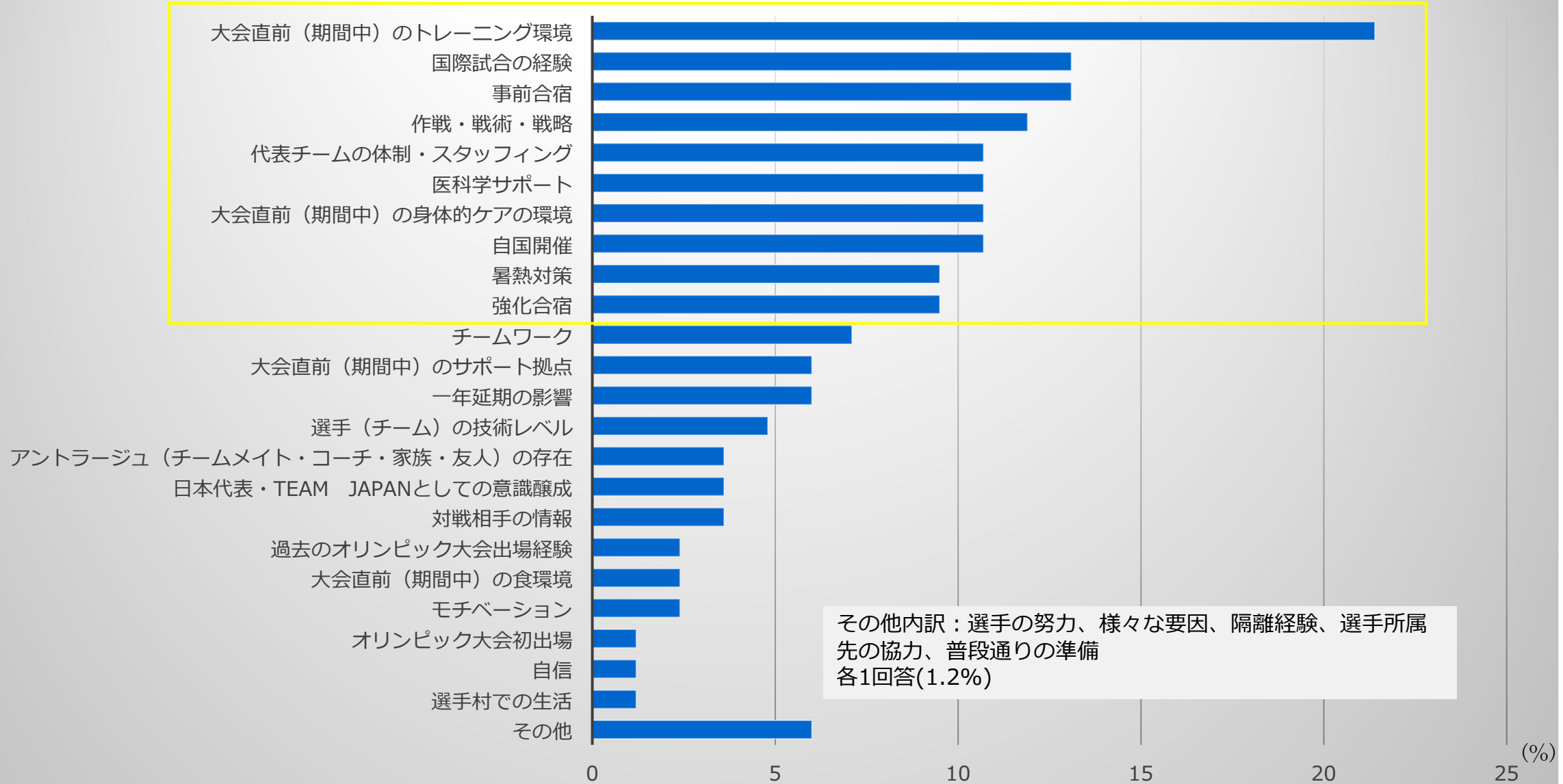
# 今大会(東京2020)の競技結果に何が影響したと考えますか？

以下の中からプラスに影響したものを教えてください。

## 今大会の競技結果について、やや満足・とても満足群とやや不満、かなり不満群との比較

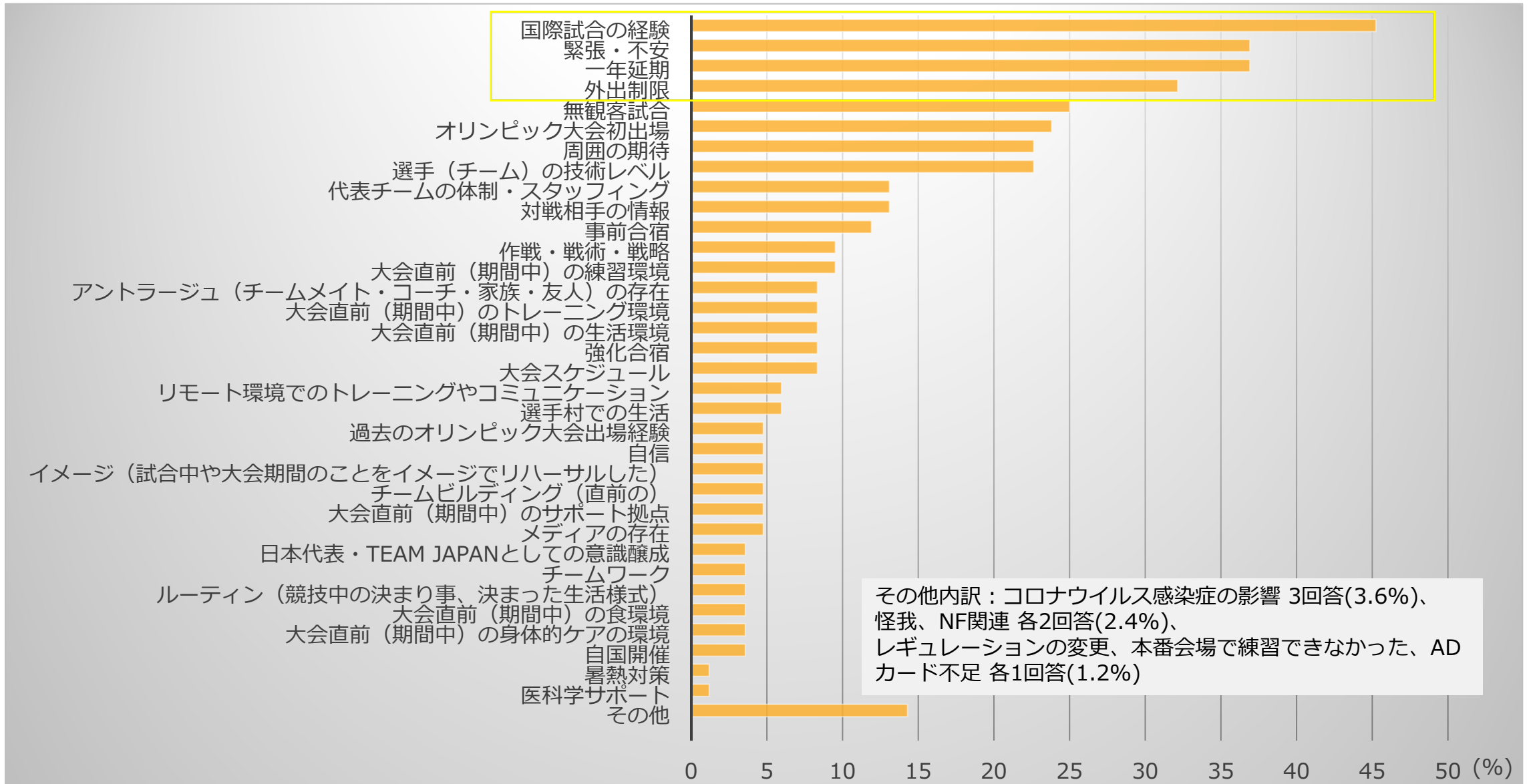


# プラスに影響したものの中でも特に上手かったこととして どのようなことがあげられますか？





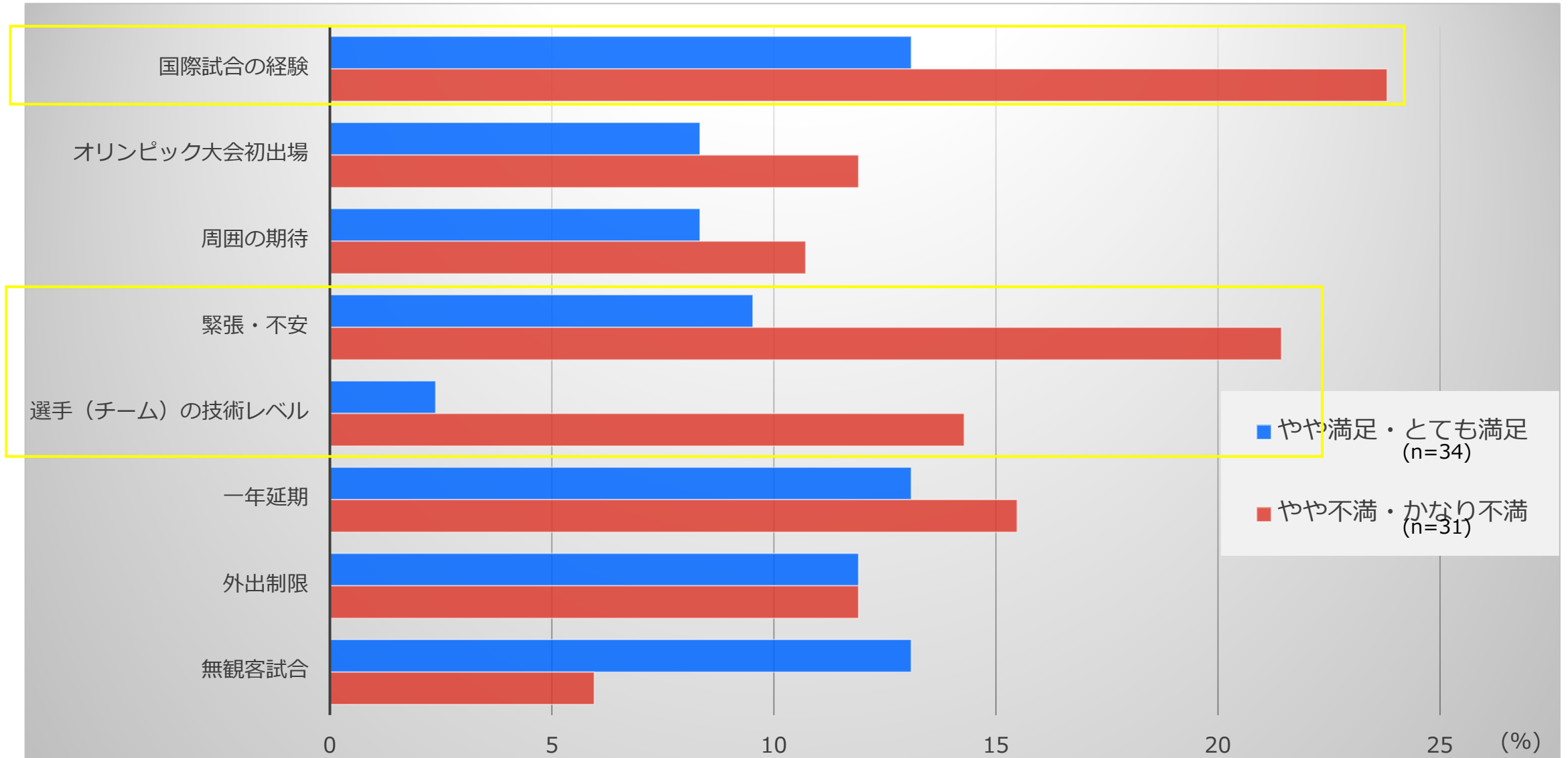
# 今大会(東京2020)の競技結果に何が影響したと考えますか？ 以下の中からマイナスに影響したものを教えてください。(複数選択可)



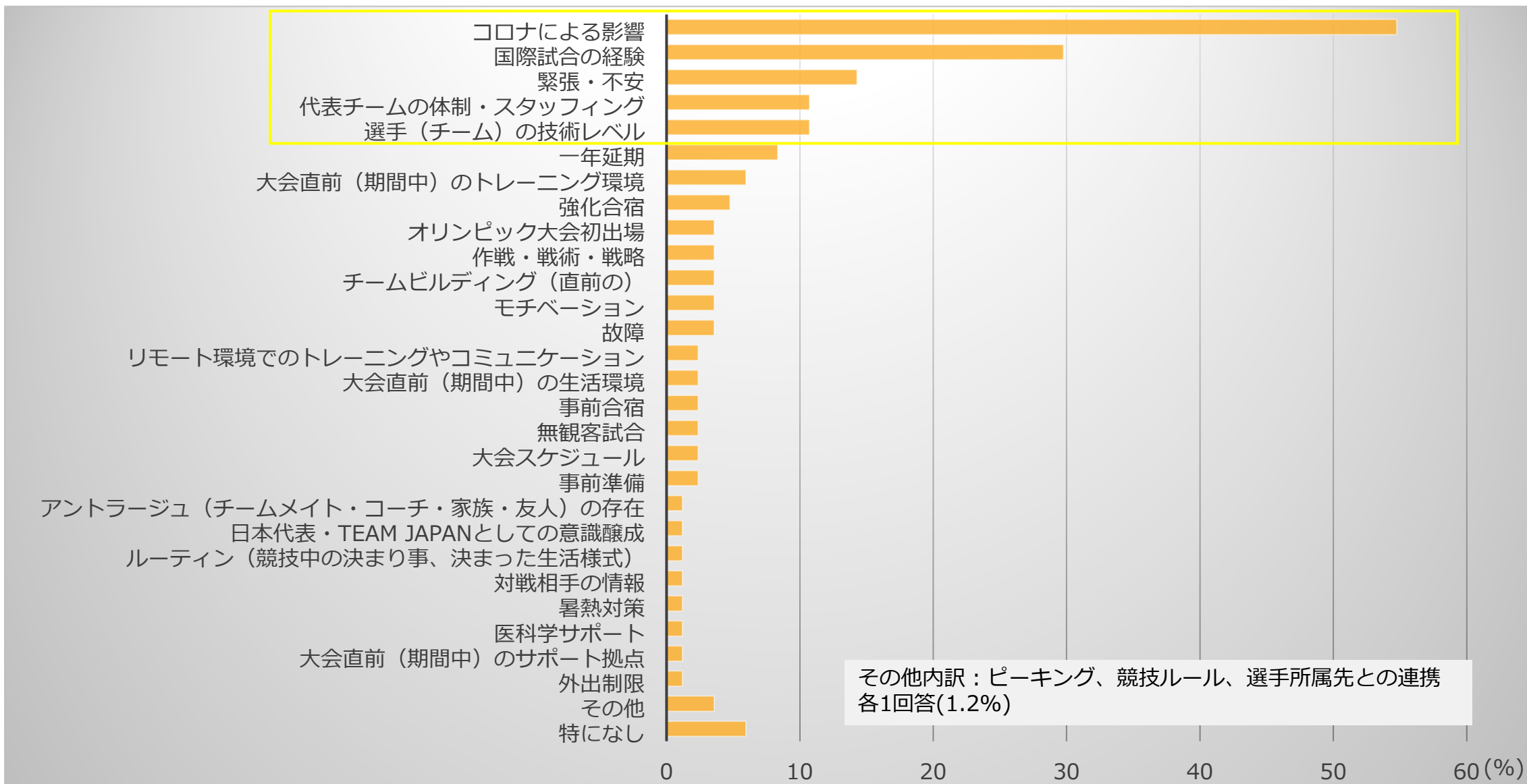
今大会(東京2020)の競技結果に何が影響したと考えますか？

以下の中からマイナスに影響したものを教えてください。

今大会の競技結果について、やや満足・とても満足群とやや不満、かなり不満群との比較



# マイナスに影響したものの中でも特に上手いかなかったこととしてどのようなことがあげられますか？



今大会を振り返って、コロナによる影響以外で想定外だったことがあれば教えて下さい。

■ 突然の開催場所、日程、時間(試合、練習)などの変更

(8:陸上競技、サッカー、テニス、ボート、卓球、カヌー、アーチェリー、サーフィン)

■ ホームなのに競技会場での練習が十分にできなかったこと(4:陸上競技、ホッケー、ライフル射撃(ピストル、ライフル))

■ 競技などに関する様々な情報伝達・共有の不備(4:サッカー、馬術、フェンシング、テコンドー)

■ 輸送(バス移動に関するトラブル等)(4:ボクシング、体操、新体操、自転車(BMX))

■ 競技会場での厳格なコーチ・スタッフの入場制限(3:フェンシング、スケートボード、カヌー(スプリント))

■ 大会前の選手の怪我(3:バレーボール(男子、女子)、バドミントン)

■ 直前の登録人数の変更(2:ホッケー、ハンドボール)

■ 入国による隔離処置(2:バスケットボール(男子、3×3))

■ 環境(暑かった、暑くなかった)(2:陸上競技、トライアスロン)

■ その他(11)

(ユニフォームの不許可、PCR検査陽性のためスタッフが来日できなかった、スポーツ仲裁機構への異議申し立て、無観客など)

大会直前や期間中に他国が行っていた取り組みで、有用、有益な取り組みだと感じたものがあれば、教えて下さい。

### ■ 充実したサポートスタッフによる支援(人数と専門家)

(8:体操女子(医師帯同)、トランポリン、バスケットボール(シェフ帯同)、レスリング、卓球、セーリング、ハンドボール(メンタルコーチ帯同)、クレー射撃(トレーナー帯同))

### ■ 自前での練習場の確保

(4:体操、バスケットボール、フェンシング、テコンドー)

### ■ 自前での事前合宿(含・事前調整)

(4:陸上競技、バスケットボール、近代五種、サーフィン)

### ■ 競技会場近くにホテルを確保していた

(3:体操、バスケットボール、レスリング)

### ■ 東京オリンピックと同じ施設・仕様を作って練習していた


(2:自転車(BMX)、スポーツクライミング、)

### ■ その他(7) (アイスバス設置、スラリーマシン設置、テニス用アイスベスト、対戦相手の徹底的な分析、合同合宿(他国)や国際試合(出場国)の参加、選手村でのリラックス環境創出、選手村棟内にジム設置、食事の提供など)

＜参考＞他国の取り組み①：選手村から遠方に拠点を構えた国

アメリカ  (7/4～8/16)：大蔵運動公園内施設（世田谷区）・ハイパフォーマンス・トレーニング・センター

ソフトボール，フェンシング，競泳，トライアスロン，マラソンスイミング，アーティスティックスイミング，水球，トランポリン，体操競技，新体操，バレーボール，ビーチバレーボール，サッカー，ラグビー，空手，テコンドー，柔道，陸上競技，近代五種，アーチェリー  
利用人数（のべ人数）：3417人。特記：USOPCのスタッフが食事提供。メニューは日替わりで希望する料理をスタッフがサーブする形式。レストランは昼と夜に営業され，1日100～400食程度が提供された。

イギリス  ①メイン拠点：横浜国際プール(横浜市) (7/12～8/5) 約50名 競泳，アーティスティックスイミング，飛込




等々力陸上競技場(川崎市) (7/9～8/2) 約200名 陸上競技，サッカー，7人制ラグビー

慶應義塾大学日吉キャンパス (7/8～8/7) 約400名 アーチェリー，ボクシング，柔道，ウエイトリフティング，体操，バドミントン，フェンシング，ホッケー，テコンドー，バスケットボール，近代五種，卓球ほか

②サブ拠点：横浜カントリークラブ (7/16～7/31) 約30名 陸上競技（ロード）


パシフィコ横浜ペDESTリアンデッキ (7/9～7/28) 約50名 ボクシング，サッカー，ホッケーほか

③英国チーム Performance Lodge(お台場学園前) (7/10～8/11) 提供場所：各階の小学校教室の一部、小中学校体育館、プール、校庭、ランチルーム等。体育館にはウエイトトレーニングルーム，卓球などの練習場完備(写真左)。

イタリア  (7/9～8/3)：早稲田大学所沢キャンパス（陸上競技場，スポーツホール，柔道場，トレーニングジム，アクアアリーナ，陸上部寮，宿泊施設等）約200名強 陸上競技，水泳，フェンシング

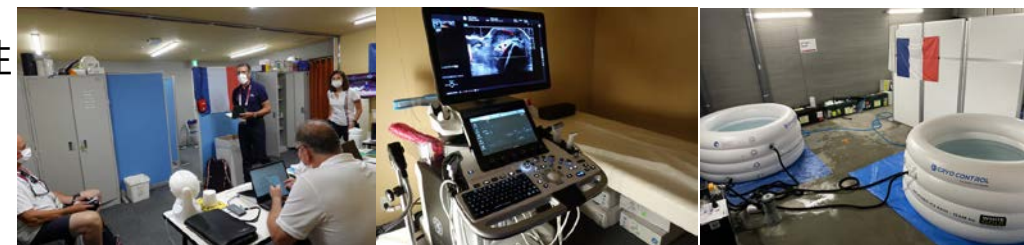
【その他の場所】宮城県仙台市：サッカー，ソフトボール，バレーボール。東京都板橋区：バレーボール。静岡県御殿場市：空手，柔道。長野県諏訪町：ボート。大分県大分市：フェンシング（サーブル）。


## <参考> 他国の取り組み② : 選手村内機能と村外拠点を設置した国

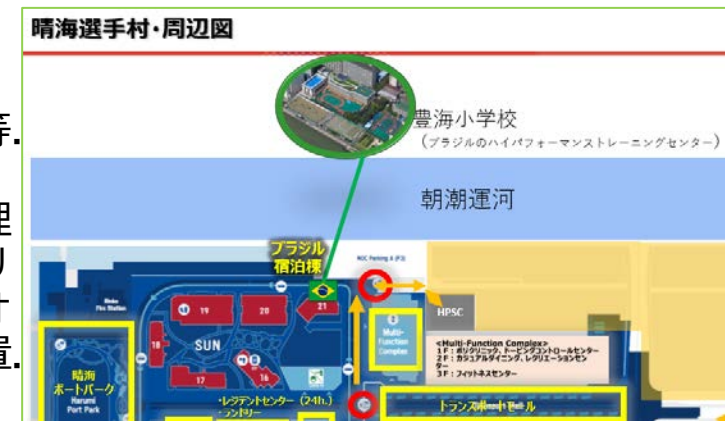
**オーストラリア**  (選手村内14号棟) これまでのオリンピックではオーストラリアは選手村外にサポート拠点を設置してきたが、今回はCovid-19の影響を避けるため、村内にサポート機能をもたせた。主な機能は、1. トレーニング、2. リカバリー促進、3. パフォーマンス分析、4. 食事サポート、5. リラックス促進である。地下にジム (フリーウエイトLATマシン、自転車エルゴメータ、ローイングマシンなど (1度に15人まで利用可) を設置 (写真左) し、アイスバス (14℃) 10台配置 (写真右)。食堂で過ごす時間を極力少なくし、感染予防に努めるため食材を持ち込み食事提供サポートを充実させた。



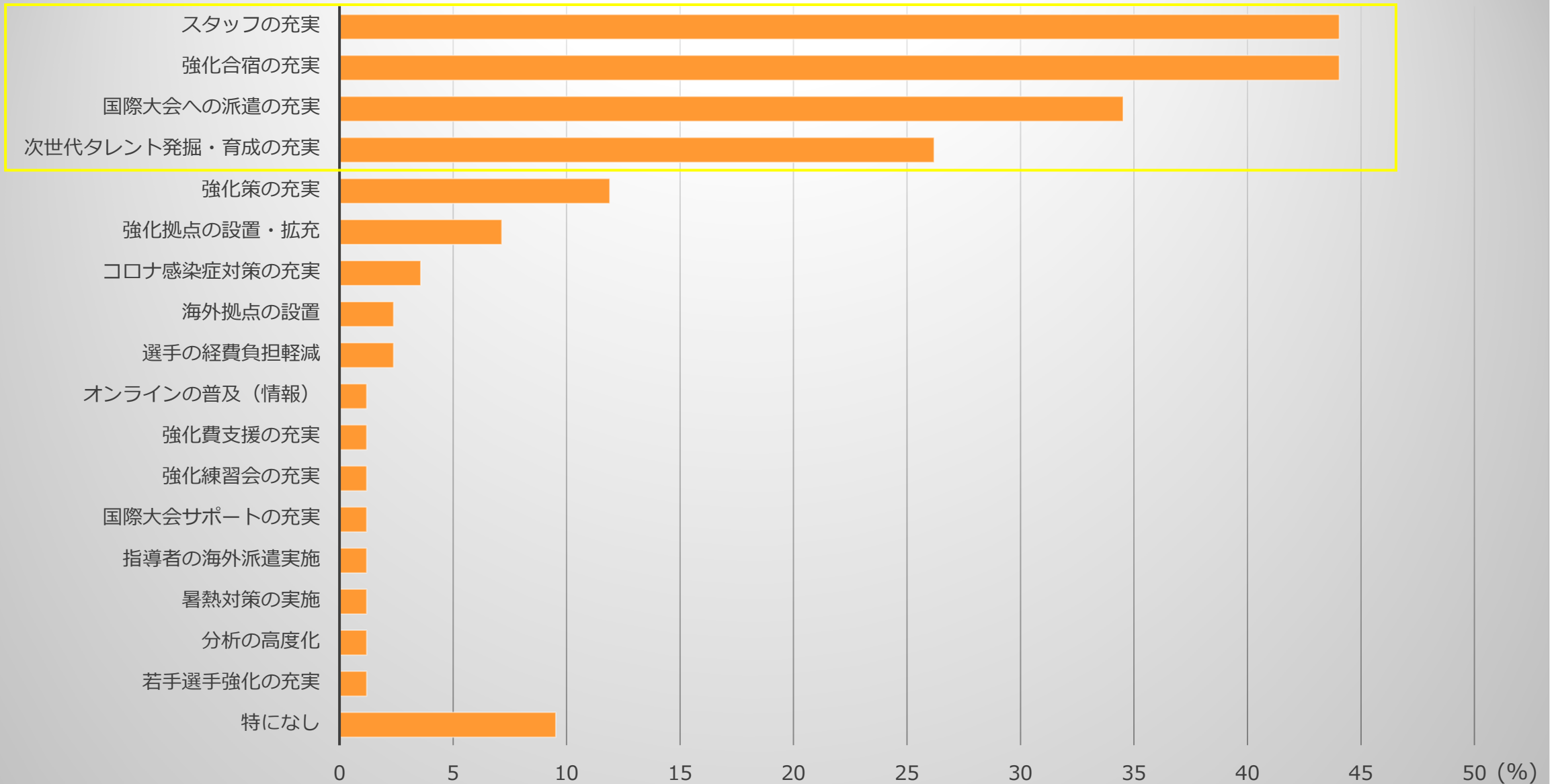
**フランス**  (選手村19号棟) 選手村から約2km離れた芝浦工業大学 (豊洲キャンパス) にサポート拠点を設置するべく準備してきたが、Covid-19のため、村内機能に限られた。主な機能は、1. 治療とケア、2. リカバリー促進、3. メディア対応システム。トレーニング機能は整備されていなかったが、治療・ケア・回復に重きを置いた機能性を持たせていた。診察室2室と超音波装置 (写真左) フィジオセラピストによるケアルーム (3部屋 (内1部屋バスケ専用))、地下1階にアイスバス5台設置 (写真右)。サポートスタッフ用ホテルは村外 (2キロ外) ホテルに100ベッド確保していた。



**ブラジル**  (選手村21号棟) 選手村とは朝潮運河をはさんだ向かい側の豊海小学校に村外拠点 (ハイパフォーマンストレーニングセンター) を設置 (スタッフ40名) していた。ここでの主な機能は、1. トレーニング、2. リカバリーと食事提供、3. メディア・セレモニー対応、4. テクニカルミーティング等。豊海小学校に、ジム、バレーボールコートなどを設置。(バレーコートは試合会場と同じ仕様)。食事は、ブラジル系会社にケータリングを依頼し、8名のシェフを帯同させ全期間で25000食を準備。心理カウンセラー、フィジカルトレーナーなどのスタッフ常駐。自動式アイスバス2 (選手村1)、ランドリー3台設置。村内にはトレーニング機能はないが、ケアルームにフィジオセラピスト7名以上常駐、ビデオ分析スタッフ2名、運動生理学者1名で免疫系、筋肉の炎症・浮腫、損傷、電解質等の血液分析機器を設置。選手村、村外拠点は、毎回進化させてきており、パリに向けて更に進化させる予定とのこと。



# 強化費増の今大会競技成績への影響について、率直にお聞かせ下さい。





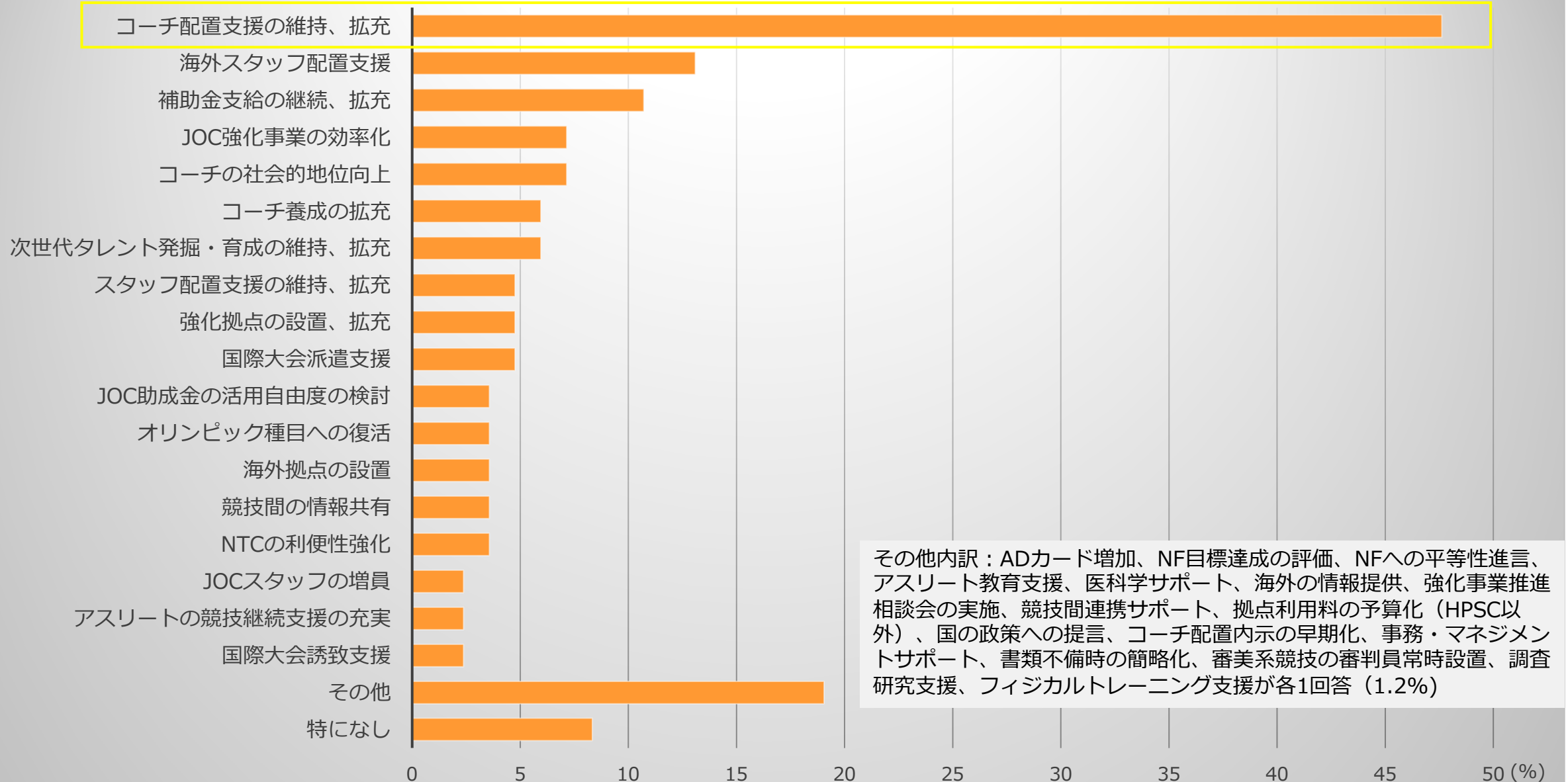
## 東京2020大会へ向けた体制(監督・HCなど)が決まったのはいつからですか？

決定年	数	競技種目 (赤字:メダル獲得)
2004年	1	バドミントン
2009年	1	新体操
2012年	1	レスリング女子
2014年	1	自転車競技ロード
2015年	4	ソフトボール、ボート、障害馬術、カヌースプリント(スタッフ追加あり)
2016年	18	陸上競技、水泳、ボクシング女子、体操男子、バスケットボール、ウエイトリフティング、自転車競技トラック、卓球、柔道、ゴルフ、スポーツクライミング、スケートボード、サッカー女子、バレーボール、セーリング、ハンドボール女子、カヌースラローム、ホッケー女子(体制変更あり)
2017年	12	アーチェリー、野球、サーフィン、サッカー男子、テニス、ホッケー男子、トランポリン、バスケットボール3×3、ハンドボール男子、ライフル射撃、近代五種、トライアスロン
2018年	1	ラグビー男子
2019年	5	ボクシング男子、レスリング男子、空手、ビーチバレーボール、BMXレーシング
1年以内変更あり	2	フェンシング、ラグビー女子
1-2年変更あり	1	テコンドー
2-3年変更あり	2	体操女子、馬場馬術
複数回変更あり	1	クレ射撃

## 今大会を振り返って、望むサポートとしてどのようなものがあればよかったですか？

回答数(%)	回答内容
24(28.6%)	・サポートスタッフの充実
10(11.9%)	・ADカードの確保
3(3.6%)	・組織委員との連携 ・競技会場への移動 ・コロナ対策(生活面含む)
2(2.4%)	・SNS対応のサポート ・海外遠征関連(出入国時の隔離緩和含む) ・コーチングスタッフの充実 ・選手村:荷物の移動
各1(1.2%)	【その他】 コーディネーターの設置、日常からのサポート、選手村:オンライン予約システム、マンパワーアップ、スポーツの社会的地位向上、オリンピック初出場競技団体への説明、登録選手数の増員、託児所の設置、医科学サポートの情報提供、選手村:サテライトビレッジでの食事提供、JOCスタッフの増員、強化拠点の設置・充実

## JOCに望むことを教えてください。



- 今大会の競技結果についての回答は、**とても満足とやや満足を合わせると約4割**、かなり不満が約2割を示した。
- 競技結果にプラスに影響したものは、**アントラージュの存在**、代表チームのスタッフィング、作戦・戦術・戦略、国際試合の経験、自国開催の回答が約5割程度と高く、次いで、大会直前(期間中)の練習、技術レベル、医科学サポート、チームワーク、大会直前(期間中)の練習・トレーニング・身体的ケアの環境、暑熱対策などの回答が高い割合を示した。  
⇒**アントラージュの存在、強固な強化体制の確立(チームづくり)と国際経験、大会直前(期間中)の環境整備及び暑熱対策を含めた医科学サポートの重要性**が推察される
- スポーツ庁の委託事業による暑熱対策のための開発品(汗成分を基にしたスペシャルドリンク、手のひら、首、頭を冷やす冷却物)がマラソン・競歩等では2019年から継続活用され、本大会中には**選手団本部との連携で14の競技で活用**され、成果につながった。
- 競技結果にマイナスに影響したものは、**緊張・不安、一年延期、外出制限**の回答が最も多く、次いで、国際試合の経験、無観客試合、オリンピック初出場、周囲の期待などであった。  
⇒**気持ちの持ち方、ストレスの対処法などのメンタルサポートと国際経験の重要性**が推察される
- 競技結果にプラスに影響したもののうち代表チームのスタッフィングが最も高い割合を示していたが、ほとんどの種目が2016年リオデジャネイロオリンピック後の**2016～2017年に体制**が決まっていた。
- 強化費増の今大会競技成績への影響については、**スタッフの充実、強化合宿の充実**と回答した割合が約45%と最も高く、次いで、国際大会派遣と次世代トップアスリートの育成・強化の充実であった。  
今大会を振り返って、望むサポートとして、**サポートスタッフの充実**と回答した割合(約3割)が最も高く、JOCに望むこととしては、約5割近くが**コーチ配置支援の維持・拡充**と回答していた。

日本代表選手団は、金メダル数(27)、総メダル数(58)、入賞数(4位～8位:78)とも過去最高の競技成績を達成。NOC別ランキングで3位となり、女子種目で過去最多14個の金を含む30個のメダル獲得したが、目標としていた金メダル30個にはわずかに届かなかった。

しかしながら、鈴木プランで掲げられた支援方針、及び競技力向上事業予算の拡充は、以下の点等で効果的に成果に結びついたといえる。

## <競技力向上事業予算の拡充>

- ・コーチ設置事業予算の拡充によるナショナルコーチ等・専任コーチ等の人数増
- ・基盤的強化の拡充に伴う、国際大会派遣や国内合宿等の充実（特にコロナ禍以前の2019年度まで）
- ・東京2020大会中の村外宿泊関連やサポートスタッフ関連、及びPCR検査費用等感染症対策費用への柔軟な支援

## <ハイパフォーマンスセンターの機能強化>

- ・JSC・JPCを含めた協働チームを設置し、コンサルテーション実施
- ・NTC拡充整備(イースト)やナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点機能強化事業(機能強化ディレクター配置事業)
- ・医科学サポート(ハイパフォーマンス・サポート事業⇒アスリート支援)、HPSC基盤整備(スポーツ技術・開発⇒暑熱対策等)
- ・次世代トップアスリートの育成・強化(JOCエリートアカデミーなど)

## <女性トップアスリートへの支援強化>

- ・女性アスリートに特化した支援、女性特有の課題対応への支援

## <今後に向けた課題と展望>

### ○持続的で強固な強化体制の確立(ナショナルチームづくり)

- ⇒ NFの現状やニーズに即したコーチ&スタッフ配置支援と横連携する仕組みの重要性(コーチ設置事業の改善)
- ⇒ 国際経験(国際大会派遣)の機会の提供  
    ※コロナ禍における海外遠征時の特例措置等の支援も引き続きお願いしたい
- ⇒ 次世代トップアスリートの育成・強化
- ⇒ スポーツの価値向上、憧れの醸成を後押しするアスリート教育等の更なる充実

→ 基盤的強化の継続

### ○ONTCでの継続的な強化支援と競技別NTCの拡充

- ⇒ NTC及び競技別NTCの拡充含めたトレーニング環境の充実(含・オリンピック追加種目)
- ⇒ 充実した強化合宿等の継続実施
- ⇒ スポーツ医科学支援、特にメンタルサポートの充実(競技を横断した取り組みの必要性)

### ○オリンピックにおける特別支援体制の確立(早期からの着手)

- ⇒ オリンピック直前・期間中の環境整備(村内外拠点含めたトレーニング環境整備や各種サポート)
- ⇒ オリンピック開催地の特殊環境に対する特別対策(暑熱対策等)